



TOTTORI CITY

## 第 2 章

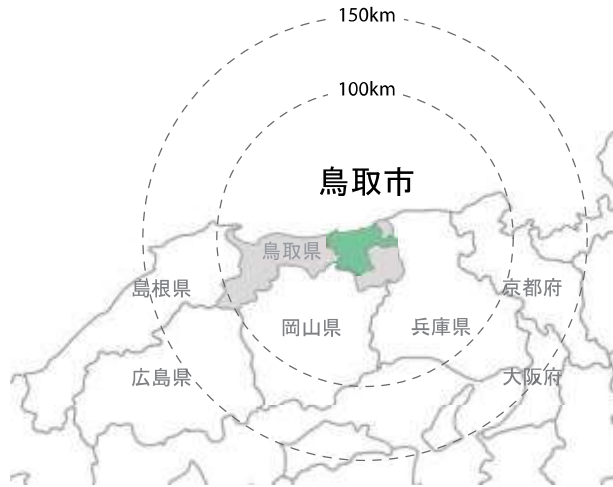


# 鳥取市の概要



## 1. 鳥取市の位置と面積

本市は、鳥取県東北部に位置する県庁所在地で、おおむね東経133度56分から134度26分、北緯35度16分から35度34分に位置し、北は日本海に面し、南は八頭町、智頭町及び岡山県、東は岩美町及び兵庫県、西は湯梨浜町及び三朝町に接しています。同じ中国地方にある広島市からは約200km、岡山、姫路からは約100km、神戸、大阪、京都からは約150kmの圏内にあります。

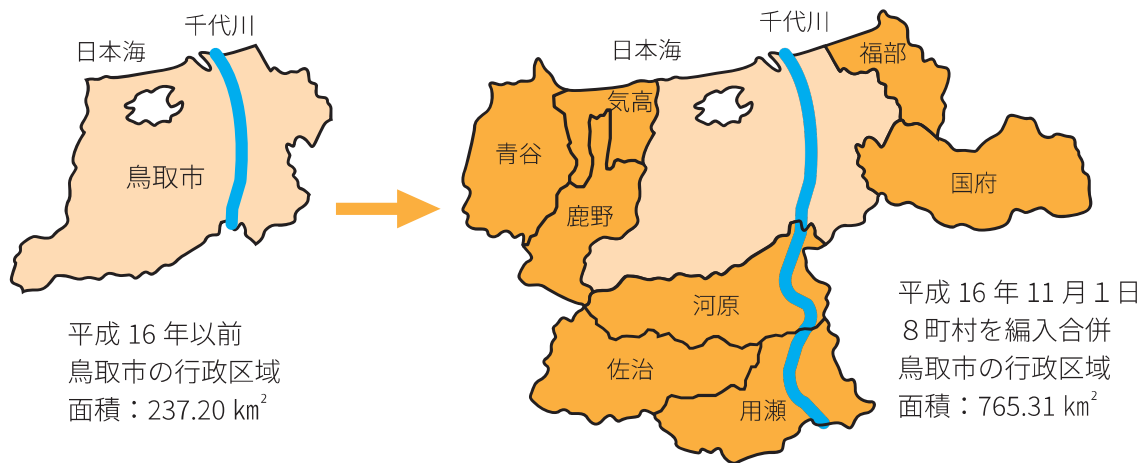


● 鳥取市の位置

本市は中国山地から日本海へ北流する千代川水系によって開けた鳥取平野・国府平野に、古代因幡国の中心地として国庁が置かれ、江戸時代には鳥取藩池田家32万石の城下町として栄えました。

明治14年(1881)に再置された鳥取県の県庁所在地として、明治22年(1889)10月1日に市制を施行し、大正から昭和、平成にかけて周辺の町村を編入するなどして市域は拡大し、平成16年(2004)11月1日に国府町、福部村、河原町、用瀬町、佐治村、気高町、鹿野町及び青谷町の8町村との合併により、東西約45km、南北約30km、総面積765.31km<sup>2</sup>の市域になりました。

その結果、山陰地方で初めての20万人都市となり、面積は鳥取県全体の約22%、人口は約33%を占め、人口、面積ともに山陰最大の市となり、大きく飛躍を遂げました。さらに平成22年(2010)3月には鳥取県東部1市4町により、「鳥取・因幡定住自立圏」を形成し、中核都市としての基盤を確固たるものにし、平成30年(2018)4月には中核市へと移行し、鳥取県東部地区に兵庫県北部但馬西部を含めた「因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏」を形成しました。



● 鳥取市域の変遷と面積

## 2. 自然環境

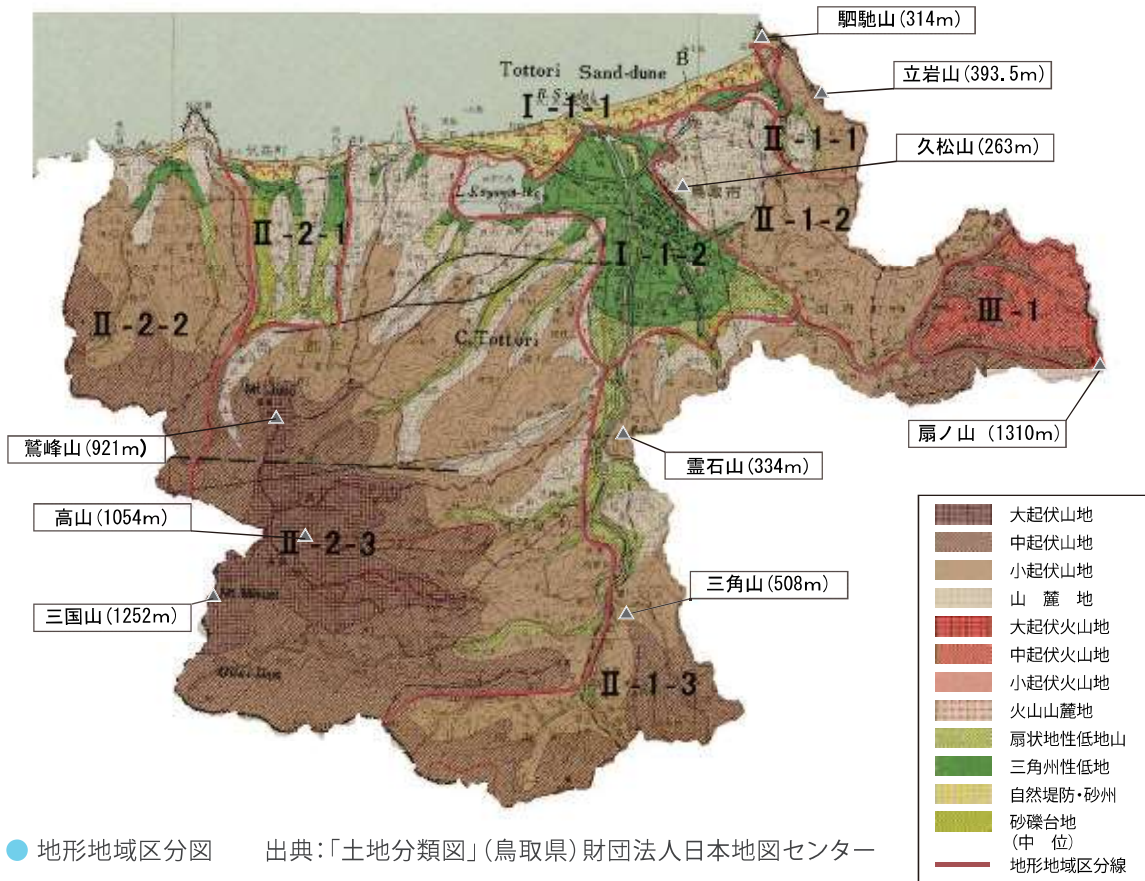
### (1) 地 形

本市は南側にそびえる中国山地から北側に延びる山地と、日本海に向けて開けた平野部によって形成されています。

本市の東端の孤立峰の駟馳山(314m)と、南東に位置する立岩山(393.5m)が福部町と隣接する岩美郡岩美町との境界をなし、本市の南東部にある扇ノ山(1,310m)が八頭郡八頭町・若桜町と兵庫県新温泉町の県境にそびえています。扇ノ山は本市の最高峰で、兵庫・岡山両県との県境にある中国山地の一部である「因幡山岳地帯」を構成しています。この地域は多様な地形や地質に育まれた貴重な動植物が生息する雄大な山岳地帯に臨んでいます。南部には岡山県と鳥取県の県境にある那岐山(1,255m)を中心とする山系が広がり、扇ノ山も氷ノ山後山那岐山国定公園の一角にあります。また南西部の三国山(1,252m)や高山(1,054m)を含む三国山塊や、鷲峰山(921m)などの1,000m級の安山岩質溶岩の山々から成る高山山地は、北方や東に尾根を伸ばし、標高200m～500mの小起伏山地を形成しています。それらの尾根筋沿いを流れる河川の流域には沖積平野が開けています。

I 海岸平野	I-1 鳥取平野	I-1-1 鳥取砂丘
		I-1-2 鳥取平野
II 山 地	II-1 東部山地	II-1-1 駟馳山・金崎山地
		II-1-2 稲葉山山地
		II-1-3 東山・沖ノ山山地
	II-2 中部山地	II-2-1 気高平野
		II-2-2 鉢伏山山地
		II-2-3 高山山地
III 火山地	III-1 扇ノ山山地	

● 鳥取市内の地形地域区分



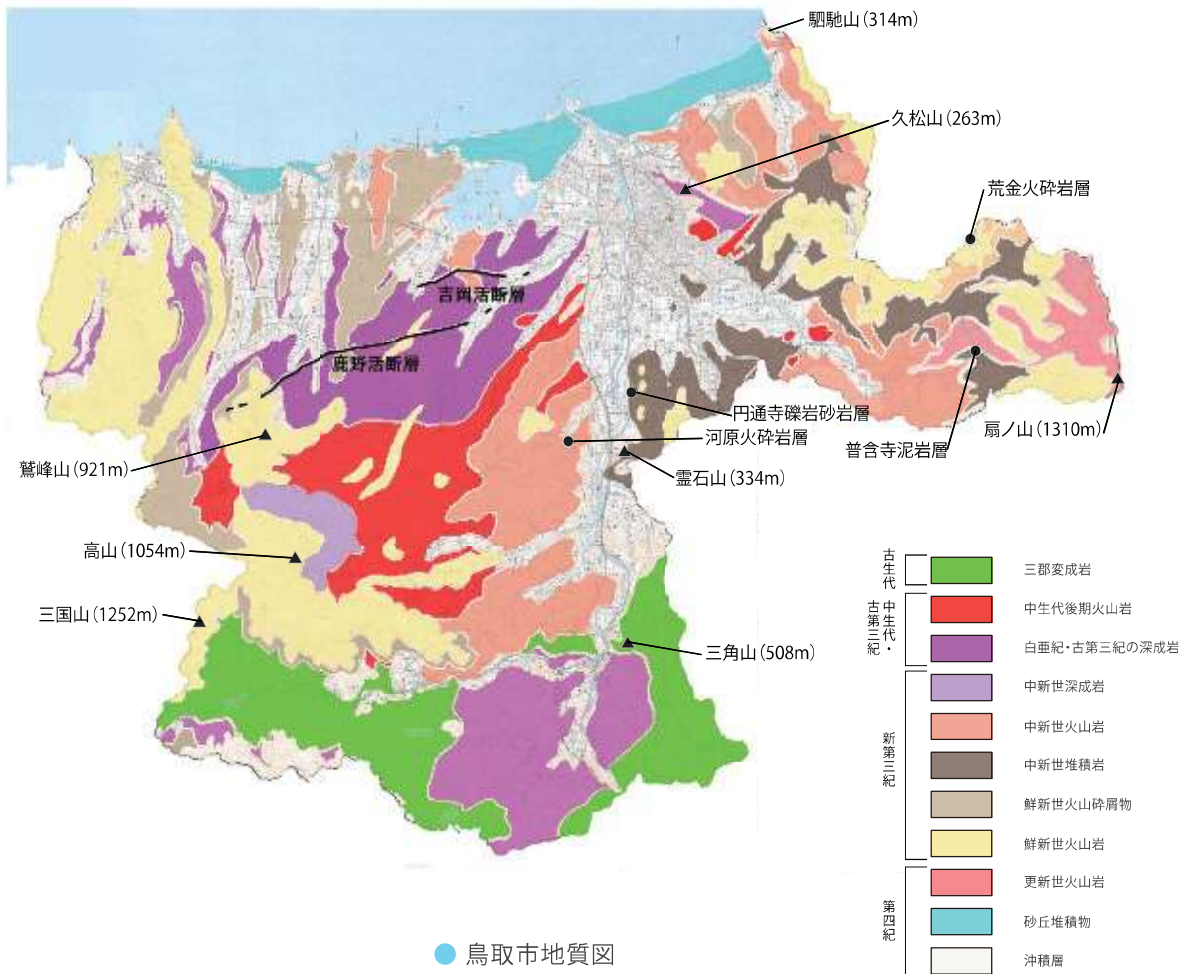
● 地形地域区分図

出典:「土地分類図」(鳥取県)財団法人日本地図センター

千代川の河口付近の沿岸部には、千代川を中心とした大小の河川により搬出された土砂が特に冬の日本海側気候特有の風と潮流により集積し、砂丘群(鳥取砂丘等)が発達しました。これらの砂丘の形成により、市内の平野部の多くは海岸と分離・閉塞された地形となっており、湖山池は旧沿岸部の名残を残す潟湖(ラグーン)になっています。

## (2) 地 質

市内には日本列島がアジア大陸の一部であった頃から、約2,500万年前の日本海形成を経て現在の日本列島の形に至るまでに形成された多様な地形や地質が存在しており、それらを背景とした人々の文化や歴史があります。鳥取市街地を中心とした沖積平野は、海拔が低いことや、周辺の山地の突端が半島状や離れ島状に存在することから、かつてここに存在した湾が、約1万2千年前に起きた縄文海進後に千代川水系などが運び込む土砂や礫により埋積されたことがうかがえます。市内の山地の地質は、①古生代の変成岩類・②中生代後期の火山岩類を貫く深成岩・③新第三紀の地層(鳥取層群及び鮮新世火山岩類)・④第四紀の地層(河川周辺に分布する沖積平野や局地的に分布する沖積層及び海岸地域の砂丘からなる堆積物)で構成されています。



### 1) 古生代の変成岩類

変成岩は、地球内部のプレート運動により地下深部で高い温度や圧力の影響を受けることでその鉱物組成が変化したものです。本市の南部には「三郡変成岩」と呼ばれるおよそ2億5,000万年前の古生代に形成された弱変成古生層があります。本市で最古の三郡変成岩が分布する地域は、三郡帯(三郡変成帯)と称され、九州北部から中国地方に広く分布しています。

### 2) 中生代後期の火山岩類を貫く深成岩

中生代(約2億5,000万年～約6,500万年前)後期の火山岩類は、主に火山活動により噴出された火山砕屑物(溶岩や火山灰など)で構成されています。火山岩類の主体は、東伯郡の湯梨浜町と三朝町に隣接する市の西部から、北東部の鳥取市街にかけて帯状に花崗岩を伴って分布しており、主岩帯の北限は貫入岩である花崗岩類に貫かれ、南限は直接基盤の弱変成古生層を覆っています。貫入岩類は、用瀬町から西方の佐治谷にかけて分布する白亜紀後期の智頭花崗岩・用瀬花崗岩と、本市西部から東北東の海岸部に分布する貫入岩類の中では、もっとも広い領域を占める新生代古第三紀の因美花崗岩類(鳥取花崗岩類)に大分されます。花崗岩は、海岸、平野部の堆積物となっているばかりでなく、古代の製鉄(たたら製鉄)の原料である砂鉄の供給源として重要な鉱物資源となりました。

### 3) 新第三紀の地層(約2,500万年前～)

新第三紀は、この地方で中新世に生じた沈降盆地内に形成された一連の堆積物のつくる地層を一括した鳥取層群と、それ以後の鮮新世の火山岩類から形成されています。市内では、主として河原町、湖山池西岸、国府町荒舟地域に分布する河原火砕岩層、鳥取層群の南西部に位置する円通寺礫岩砂岩層、東部に広がる普含寺泥岩層、十王峠で普含寺泥岩層の上に重なる荒金火砕岩層が鳥取層群を構成する地層です。鮮新世火山岩類は、火山の噴火によって運ばれた火山砕屑岩とその上に流れ込んだ溶岩流です。三国山からの溶岩台地は緩く北方へ傾斜しており、日本海沿岸に達し、本市西部の青谷の長尾鼻などは、特徴的な景観となっています。

### 4) 第四紀の地層(200万年前～)

第四紀の初頭は低い山地が海岸部に向けて岬状に突出したり、その先端が切り離されて離れ島となって、奥深い湾入が形成されていました。一方山間部では広域に分布する花崗岩類が風化し、大量の山砂(マサ土)が形成されました。これらの山砂は河川により湾入部に搬出され堆積すると共に、湾内に点在する離れ島や岬の先端に集積し、砂州が形成されその後高まりを増して、古砂丘になりました。東は駟馳山の麓から西は青谷の丸山にかけて古砂丘が局地的に形成されました。

新生代新第三紀末から第四紀にかけて本市の周辺では、扇ノ山、氷ノ山と大山や島根

県の三瓶山が噴火を繰り返し、中でも約5万年前の大山の大噴火により放出された火山灰(大山倉吉軽石層)は、更新世に形成された古砂丘を覆い、固定しました。

完新世に発達した新砂丘層はこれらの各層をすべて覆い、さらに鮮新世及びそれ以前の岩石からなる後背山地も薄く覆っています。また第四紀は人類が誕生し活動した時代でもあり、完新世では市域に新砂丘、千代川と鳥取平野、湖山池が形成され、温泉が湧出するなど現在に至るまで、人々の生活に大きく影響を与えている地形や地質特性が形作られた時代となっています。

地質時代	年数	地質層序	地史	
新生代	第四紀	完新世 1万年前	鳥取砂丘 クロスナ、段丘谷底平野 新砂丘	新砂丘の形成 砂州の形成 大山火山活動 古砂丘形成 中国山地の上昇
		更新世 200万年前	大山倉吉軽石層 古砂丘、湯山砂層 扇ノ山	
	新第三紀	鮮新世 520万年前	白兔礫層	日本海域の縮小
		中新世 2500万年前	鳥取層群 普含寺泥岩層 円通寺礫岩砂岩層 河原火砕岩層 荒金火砕岩層	日本海の拡大 日本海の誕生
	古第三紀 6300万年前	古第三紀火山岩類 因美花崗岩類(鳥取花崗岩)	海底火山活動 陸の時代	
中生代	白亜紀	智頭花崗岩・用瀬花崗岩	変成作用 海の時代	
	ジュラ紀			
	三疊紀 2億4700万年前			
古生代 5億5700万年前		三郡変成岩		

● 鳥取市の地質層序

### (3) 自然景観と鳥取市の地形・地質の関わり

本市には日本列島がまだ大陸の一部だった時代の地質や火山活動の証や、日本海形成から現在に至る様々な地形や地質がみられ、貴重な地形・地質遺産を数多く確認することができます。国指定の天然記念物である鳥取砂丘を含む、市内の一部は山陰海岸国立公園に指定されています。

#### 1) 鳥取砂丘

鳥取砂丘は、国指定の天然記念物で山陰海岸国立公園の特別保護地区に指定されている区域も含め日本最大級の砂丘です。観光地として知られる鳥取砂丘はほんの一部であり、本来の鳥取砂丘は福部町岩戸から白兔まで東西16km、南北2.4kmに広がる4つの砂丘(東から福部砂丘、浜坂砂丘、湖山砂丘、末恒砂丘)からなっています。



● 19世紀末の鳥取砂丘の広がり天然記念物・国立公園特別保護区範囲図  
 <監修 鳥取大学国際乾燥地研究機構 編者 小玉芳敬・永松大・高田健一『鳥取砂丘学』(株)古今書院 平成29年>を参考に作図

これらの砂丘は、中国山地の花崗岩類が風化してできた大量の砂が千代川や周辺の河川から日本海に流れ込み、潮流や波浪によって海岸に寄せ集められ、更に冬季の北西の季節風によって運ばれて堆積して砂州、そして砂丘を形成したと考えられています。砂と風が作り出す美しい模様(風紋や砂簾など)や、凹地形のスリバチなどが見られ、約50mの高低差のある馬の背などに象徴される大きな地形の起伏や変化に富んだ独特の景観が鳥取砂丘の魅力です。



● 鳥取砂丘と風紋



● 馬の背



● 鳥取砂丘概要図

大正8年(1919)に「史跡名勝天然記念物法」の施行を受け、地形・地質学的な砂丘の調査に加え、周辺に見られる動物、海浜植物、風景や砂丘内の遺跡などの多面的な価値付けが行われました。鳥取砂丘も浜坂砂丘を中心に昭和8年(1933)の天然記念物指定の申請をしましたが、当時は陸軍省の管轄下だったため実現せず、天然記念物に指定されたのは第二次世界大戦後の昭和30年(1955)のことでした。馬の背などの観光地として知られる浜坂砂丘の一部は、このようにして戦後の開発を逃れて、天然記念物としての価値を残す区域となっています。鳥取砂丘には132種の植物と約700種を数える昆虫が生息しており、海岸砂丘における独特な生態系を形成しています。平成2年(1990)には乾燥地利用・開発及び砂漠化防止に取り組む国内唯一の研究機関である鳥取大学乾燥地研究センターが設立されました。敷地内にあるアリドドームと呼ばれる大型の乾燥地実験施設は、世界的にもほとんど類を見ないものです。

また平成22年(2010)に、「山陰海岸ジオパーク」が世界ジオパークネットワークへの加盟を認定され、鳥取砂丘を含む山陰海岸の独特な自然景観が世界的にも認められました。国指定の天然記念物である鳥取砂丘は市や県を代表する自然資源・観光及び文化資源としても重要な役割を担っており、その環境の保全が重要な課題となっています。

● 鳥取大学乾燥地研究センターとアリドドーム  
写真提供：鳥取大学乾燥地研究センター



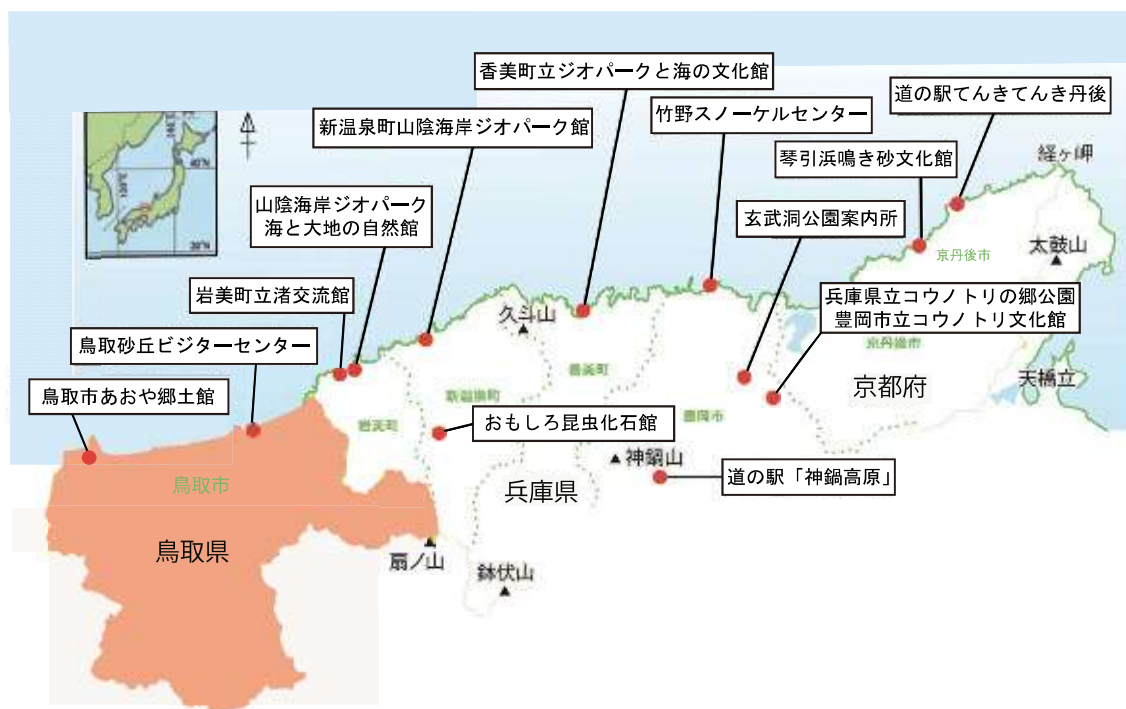
## 2) 山陰海岸国立公園

山陰海岸は、その様々な海岸地形とそこに生息する独特な動植物から、昭和30年(1955)に国立公園として指定され、さらに昭和38年(1963)に東端の京都府京丹後市から西端の鳥取県鳥取市に至る約75kmの海岸部が、山陰海岸国立公園として指定されています。山地が直接海に接するリアス式海岸(沈水海岸)、海食崖、海食洞などがさまざまな岩石で構成されていることから「地質の公園」、「岩石美の公園」とも呼ばれる一方、河口から運ばれた砂により形成された鳥取砂丘に代表される砂丘の景観など、非常に特徴のある海岸地形が特色となっています。

## 3) 山陰海岸ジオパーク

山陰海岸ジオパークは、平成20年(2008)12月に、日本ジオパーク委員会から「日本ジオパーク」として認定を受け、さらに平成22年(2010)10月4日、ギリシャ・レスヴォス島で開催された世界ジオパークネットワーク会議で、「世界ジオパークネットワーク」への加盟が認定されました。

広大なエリアを有する山陰海岸ジオパークは、京都府(京丹後市)、兵庫県(豊岡市・香美町・新温泉町)、鳥取県(鳥取市、岩美町)を含み、東西約130km、南北最大30kmに及び、面積は2458.44km<sup>2</sup>になります。この区域の特徴は約2,500万年前にさかのぼる日本海形成に関わる火成岩類や地層、日本海の海面変動や地殻変動によって形成されたリアス式海岸や砂丘をはじめとする多彩な海岸地形と、貴重な地形・地質遺産を数多く観察できることです。



● 山陰海岸ジオパーク関連施設

出典：山陰海岸ジオパーク <<https://sanin-geo.jp/>>

地形・地質学的特徴としては、以下の6つが挙げられます。

- a. 日本海形成に関わる様々な岩石や地層
- b. 日本海沿岸の変化に富んだ海岸地形
- c. 日本海形成後も引き続いた火山活動
- d. 第四紀における地磁気逆転期の発見サイト（兵庫県豊岡市の玄武洞玄武岩）
- e. 火山活動の影響を受けた豊富な温泉資源
- f. 日本海沿岸で生じる第四紀地殻変動を示す活断層・海岸段丘

鳥取市内にも湖山池や千代川など数多くのジオサイトがあり、貴重な地形・地質遺産を観察することが出来ます。またジオパーク関連施設では、常設のパネル展示や各地域のジオサイトの見どころが紹介されています。



● 鳥取市内のジオパーク関連施設とジオサイト図  
出典:山陰海岸ジオパーク <<https://sanin-geo.jp/>>

#### (4) 植 生

本市は、標高 400 ～ 600 m 付近までが暖温帯にあたり、常緑広葉樹林が生育しています。生活空間に近い久松山山麓の神社周辺などにはスダジイ群落が見られ、標高 200 ～ 300m ではコナラ群落が優占します。南西につらなる鷲峰山や三国山、高鉢山などの周辺では標高 300 m 以上からスギ・ヒノキ・サワラ植林が広がっていますが、標高 400 ～ 500m 以上ではクリ・ミズナラ群落の冷温帯落



● 鷲峰山のブナ林帯

葉広葉高木林が広がっています。高鉢山、高山、鷲峰山などの 1,000m 級の山頂付近にはクロモジ・ブナ群落が見られます。本市の東部にそびえる扇ノ山においても、標高 400 m 以上でブナ・ミズナラ群落が生育しています。低地残丘の優れた照葉樹林である大野見宿禰命神社社叢（徳尾の森）は県下最大規模の照葉樹林で、高所はシイ・ヤブニッケイ群落と、シイ・モチノキ・ヤダケ群落いのみすくねのみことじんじやしやそうが占めるほか、意上奴神社社叢おうちだに、樗谿神社社叢、倉田八幡宮社叢、白兔神社樹叢はくと、矢矯神社社叢やはぎ、松上神社のサカキ樹林など指定されている多くの社叢にも原生林が残っています。また白兔のハマナス自生南限地帯は、北方亜寒帯植物であるハマナスの自生南限地帯を示すもので学術的に貴重です。このほか希少な山地湿原として菅野のミズゴケ湿原や、自然植生が珍しいとされる安蔵あぞうのシャクナゲ群落など、豊富な植生が見られます。



● 大野見宿禰命神社社叢（徳尾の森）



● ハマナスの自生南限地帯（白兔海岸）

## (5) 動物

哺乳類の分布傾向は、ニホンジカやニホンザルをはじめとした中・大型種は少ないものの、平野部では、住宅地や周辺の林地で、アブラコウモリ、タヌキ、キツネ、アナグマ、イノシシなどが見られます。扇ノ山周辺の山地落葉樹林は、ツキノワグマの生息地となっています。鳥類は、平野部においても市街地でもさまざまな種類を観測できます。生息地で分類すると、住宅地ではイソヒヨドリが目立ち、市街地近くの橿谿公園では春から夏にかけて、市の鳥として親しまれているオオルリやキビタキ、ホトトギスなどの野鳥が見られます。山地の中腹から低地の樹林帯にはメジロ、エナガなどの留鳥、キビタキ、アオバズク、サンコウチョウなどが夏鳥として見られます。湖山池や気高町の水尻池や日光地区の水田などの水辺には、マガモ、オシドリなどのカモ類が主に冬鳥として見られます。絶滅危惧種のヘラサギ、コウノトリ及びマナヅルなど県内では珍しい種類も観測され、コハクチョウ、オオハクチョウが日本におけるほぼ南限の渡来越冬地として飛来します。近年、特別天然記念物であるコウノトリが飛来し、令和2年(2020)には気高町内に設置された人工巣塔(個人設置)に営巣したことも確認されています。扇ノ山などの山地ではイヌワシ(特別天然記念物)、クマタカなどの猛禽類、落葉広葉樹林帯にはゴジュウカラ、コルリ、山地の溪流にはオオルリ、ヤマセミなどが、山頂付近の低木林、草地にはクロジ、カッコウなどが生息しています。



● イヌワシ(特別天然記念物)  
写真提供:鳥取県文化財課



● オオルリ(鳥取市の鳥)



● 人工巣塔に営巣したコウノトリ  
写真提供:椿壽幸

両生類は、生きた化石として知られ国の特別天然記念物に指定されているオオサンショウウオが、わずかながら千代川水系などで確認されています。そのほかにも山地には小型サンショウウオのハコネサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、ブチサンショウウオが分布し、標高の低い森林に生息するカスミサンショウウオは樗谿公園、湖山池周辺、鹿野などの山際の水田付近で生息が確認されています。水田域にはニホンアカガエルやヤマアカガエル・トノサマガエルなどのカエルやアカハライモリなどが分布しています。爬虫類は、ニホンヤモリ・ニホンカナヘビ・ニホントカゲのトカゲ3種、ヤマカガシ・シマヘビ・シロマダラ・アオダイショウ・マムシなどのヘビ8種、イシガメ・クサガメ・スッポン・ミシシippiaアカミミガメ（ミドリガメ）のカメ4種が分布しています。

また、本市には千代川、塩見川、河内川、勝部川などの河川のほかに湖山池、多鯰ヶ池<sup>たねが いけ</sup>などの湖沼もあり、多くの淡水魚が生息しています。ウグイ、オイカワ、カワムツなどのコイ科や、ドジョウ、ナマズ、メダカなどの純淡水魚類は河川の上流から中流及びその支流に生息しています。回遊魚類は大きく分けると成魚が産卵のために海から遡上するものと幼魚が河川で成長するために遡上するものとに分けられます。前者はサケの仲間やイトヨ、シラウオなどが挙げられ、後者はアユやウナギ、ハゼの仲間などが挙げられます。近年河川環境の変化で、スナヤツメ、ニッコウイワナ、ヤマメ、メダカ、イトヨなどは生息場所や個体数が減少しています。

生息する昆虫類の数は把握できていないものの、少なくともチョウが120種、トンボは80種が生息するとされ、市街地近くでも希少な昆虫類を見ることができます。ヒサマツミドリシジミは昭和10年(1935)久松山で新種として発見され、<sup>きゅうしやうざん</sup>久松山の久松(ヒサマツ)にちなんで名づけられました。このほか久松山周辺(東町、栗谷町、上町)ではキマダラルリツバメが多く確認されていたことから、昭和9年(1934)には生息地が国指定天然記念物に指定されました。近年では久松山周辺の個体は減少していますが、鳥取砂丘の砂防林では個体数の増加が認められます。佐治町の三原台で生息が確認されていたウスイロヒョウモンモドキや国府町の河合谷高原が県内唯一の生息地として知られていたアリと共生するクロシジミも近年姿が確認されていないことから絶滅が危惧されています。



● オオサンショウウオ(特別天然記念物)



● ヒサマツミドリシジミ

写真提供:鳥取県立博物館

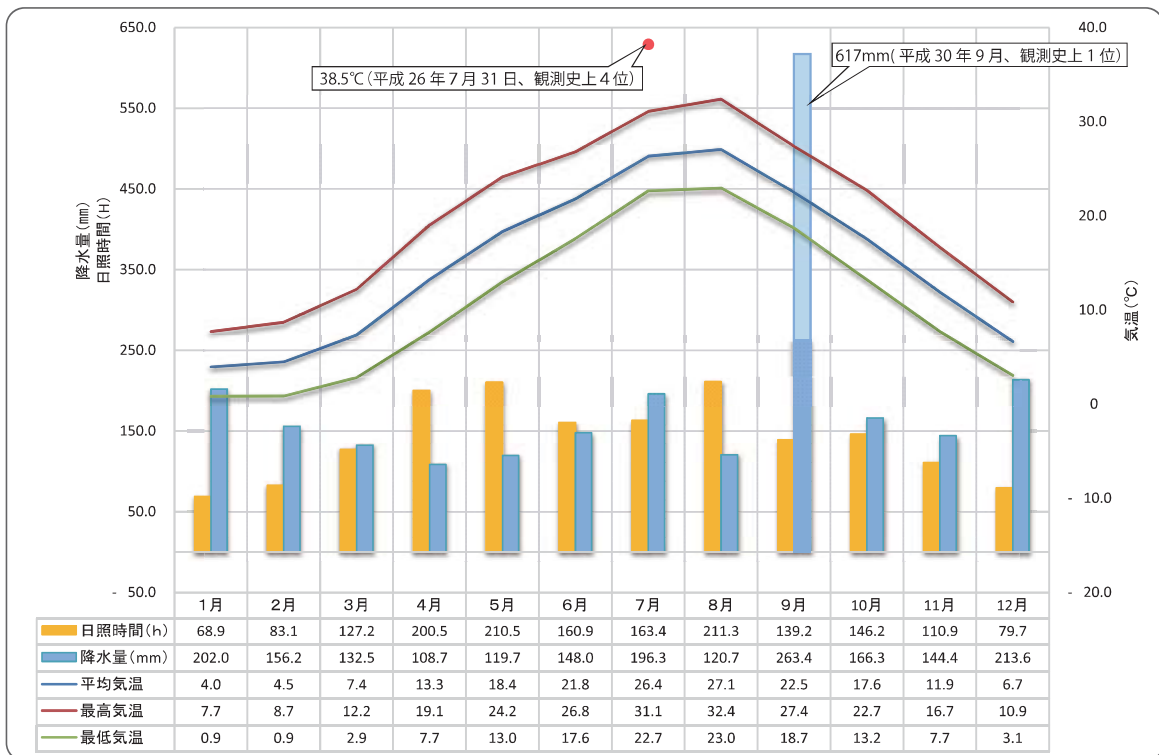
## (6)気 候

本市の気候は、温暖湿潤気候の中でも日本海側気候に属しますが、さらに小気候区に分類すると山陰型気候区の傾向を示し、降水量のピークは9月で、冬季に多い東北や北陸の日本海側とは異なります。

冬季は、西高東低の気圧配置により、大陸の冷たい季節風が沿岸を北に流れる対馬暖流から熱や水蒸気を吸収して、雲が発達しやすい状態となり雨や雪の日が多くなります。春季は、好天の日が多くなりますが、6月頃からは梅雨前線、夏季から秋季にかけて、台風や秋雨前線、また11月以降には大陸の寒気の影響によりしぐれる日が多くなります。

鳥取地方気象台の昭和56年(1981)から令和元年(2019)までの38年間の降雨・気温の月平均の記録によると、降水量は年間を通じて100mm/月以上を記録し、冬季と秋季の降雪・降雨による降水量が多く、それに伴い日照時間が少ない傾向にあります。気温は冬季の月平均値が1月に4.0℃ですが、夏には南風によるフェーン現象で猛暑日となることもあります。近年の極值的な記録では、平成30年(2018)9月30日に鳥取を襲った台風24号による豪雨により、月間降水量が617mm(観測史上1位)、最高気温では38.5℃(平成26年(2014)7月31日、観測史上4位)を記録しています。

積雪は11月から4月まで記録され、1月から2月にかけて約30cm程度の積雪があります。特に平成29年(2017)の大雪では、1月23日に57cm、2月11日に91cmを記録しています。



● 鳥取市の気候 鳥取地方気象台のデータを元に作成

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
降雪日数(日)	16.3	13.4	5.9	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	8.0
最深平均(cm)	34.0	31.0	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.0

● 鳥取市の平均積雪量 (昭和56年(1981)～令和元年(2019)) 鳥取地方気象台のデータを元に作成

### 3. 社会的環境

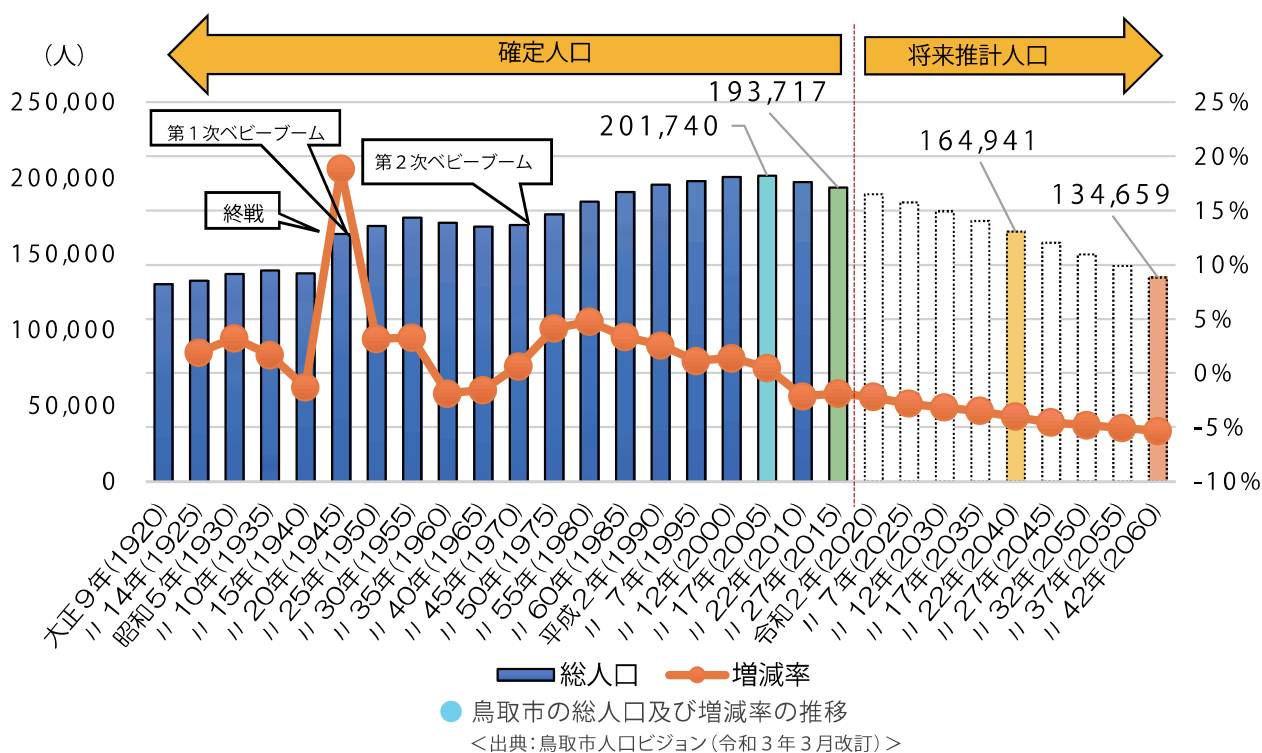
#### (1) 人口

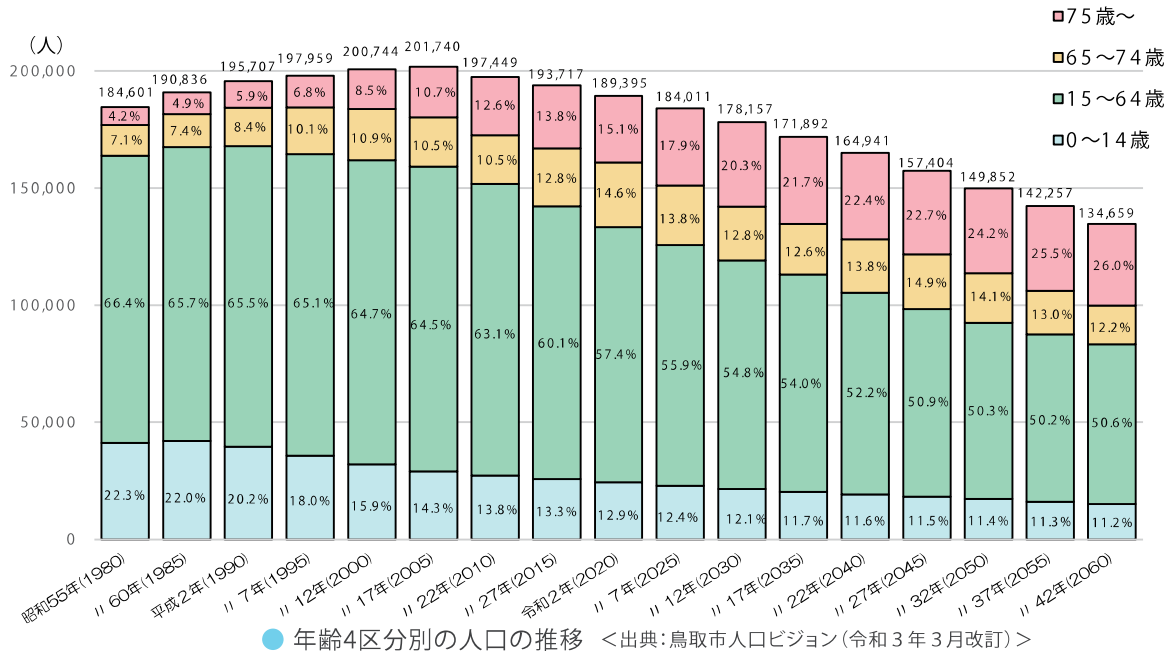
本市の人口は、昭和28年(1953)の合併も含めて増加の一途をたどり、平成16年(2004)の6町2村の合併により、総人口は山陰地方で初めて20万人を超え、鳥取県の総人口の約33%となりました。しかし合併以後の平成17年(2005)から人口減少が始まり、平成30年には19万人を割り込み、老年人口の割合は増加傾向を示す一方、年少人口の割合は減少傾向にあります。世帯数は平成17年以降も増加してきており核家族化が進んでいることがうかがえます。

将来的な人口減少対策の指針である「鳥取市人口ビジョン(令和3年3月改訂)」では、令和22年(2040)には16万4,941人、令和42年(2060)には13万4,659人に減少すると推計されています。

老年人口(65歳以上)は、昭和55年(1980)以降増加する一方で、年少人口(0～15歳未満)は減少してきており、平成12年(2000)には老年人口が年少人口を上回りました。また生産年齢人口(15歳以上～65歳未満)については、平成17年(2005)をピークに減少に転じています。

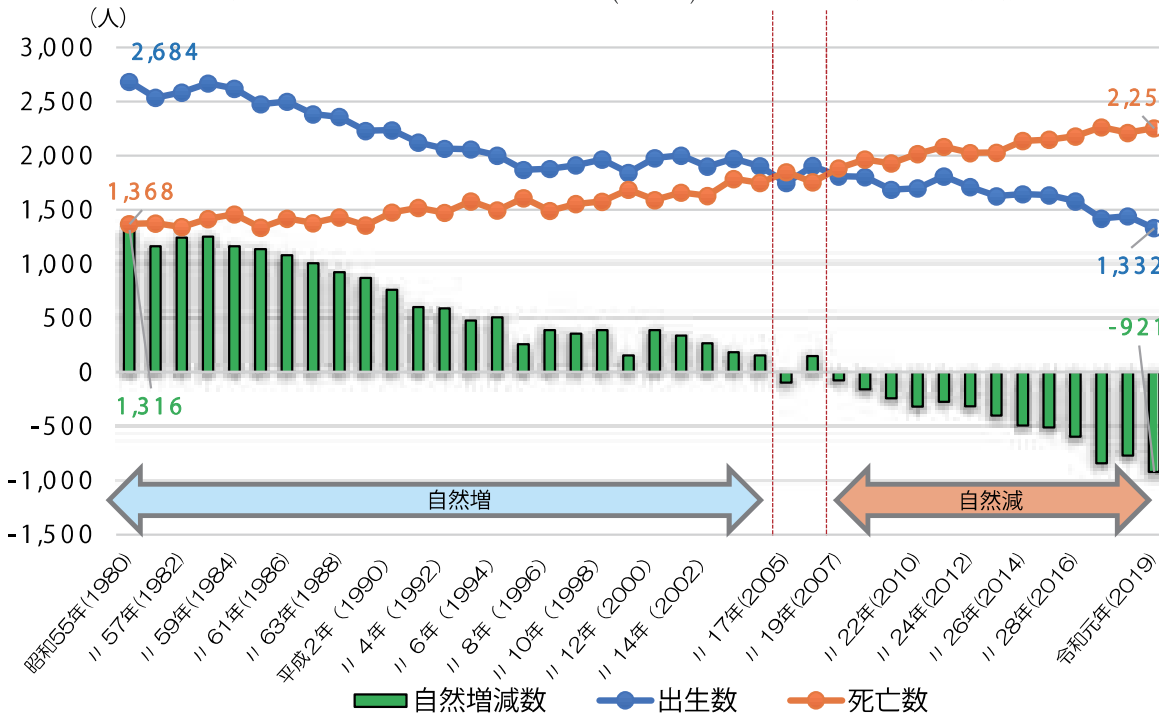
平成27年(2015)年に26.6%であった本市の老年人口(65歳以上)の割合は、今後さらに上昇し、令和37年(2055)に高齢化率は38.5%でピークに達すると見込まれています。このうち医療や介護が必要となるリスクが高まる75歳以上人口は、令和7年(2025)に団塊の世代がすべて75歳以上に到達することで大幅に増加し、令和17年(2035)頃にピークを迎える見込まれています。そして、令和32年(2050)に団塊ジュニア世代が75歳以上に到達することで、再び75歳以上の人口はピーク(2回目)を迎える見込まれています。





出生・死亡に伴う人口の動きである自然動態については、平成17年(2005)に初めて出生数が死亡数を下回り、平成19年(2007)以降は、出生数が死亡数を下回る状態が続き、令和元年(2019)においては、その差が921人となるなど、拡大傾向にあります。自然増減数(出生数-死亡数)については、出生率の低下や母親世代の人口減少の影響で、出生数が減少傾向にありますが、平成16年(2004)までは平均寿命の伸びを背景に死亡数がそれほど増えず、人口動態は自然増となっていました。

しかし、その後は高齢者人口の増加に伴い死亡数の増加が続いていることで、人口動態の自然減が拡大傾向となっています。これに加えて、一人の女性が一生に産む子どもの平均数である合計特殊出生率も、平成27年(2015)の1.66を最高に減少傾向にあり、

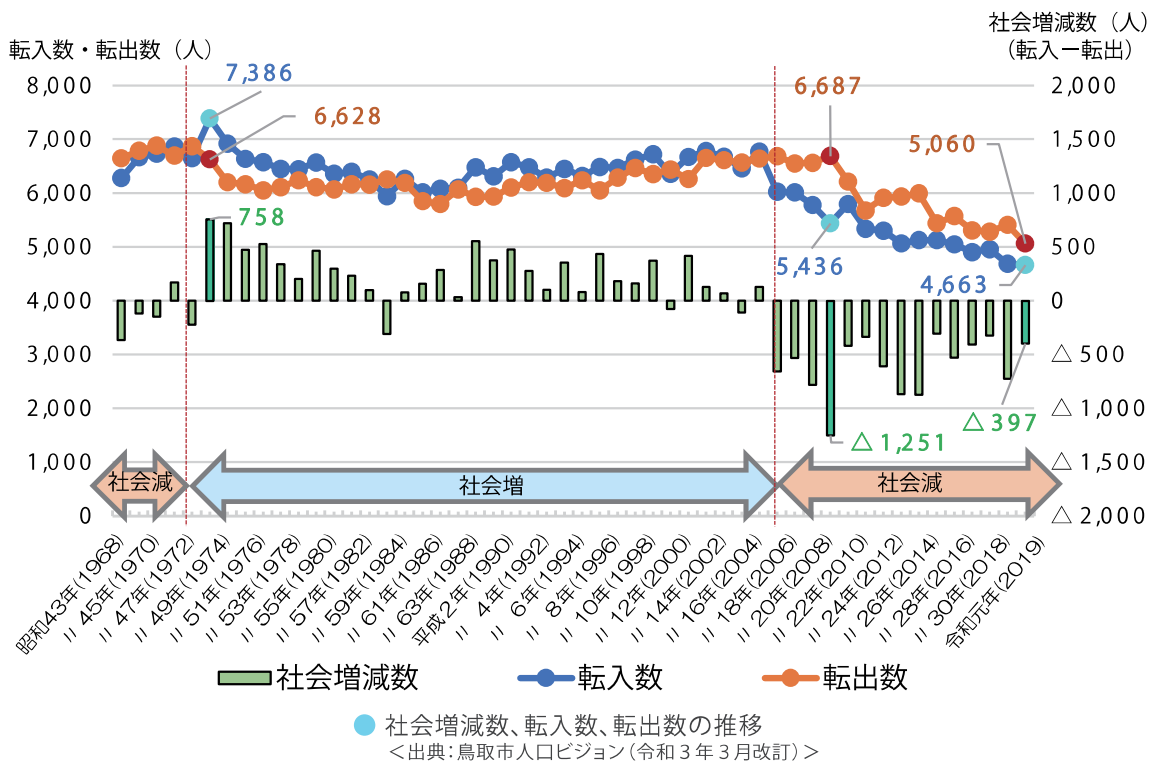




全国平均を上回る数値であるものの、鳥取県全体との比較ではほとんどの年で下回っています。

転入・転出に伴う人口の動きである社会動態については、平成16年(2004)までは年により変動はあるものの、転入超過(社会増)の状態となっています。

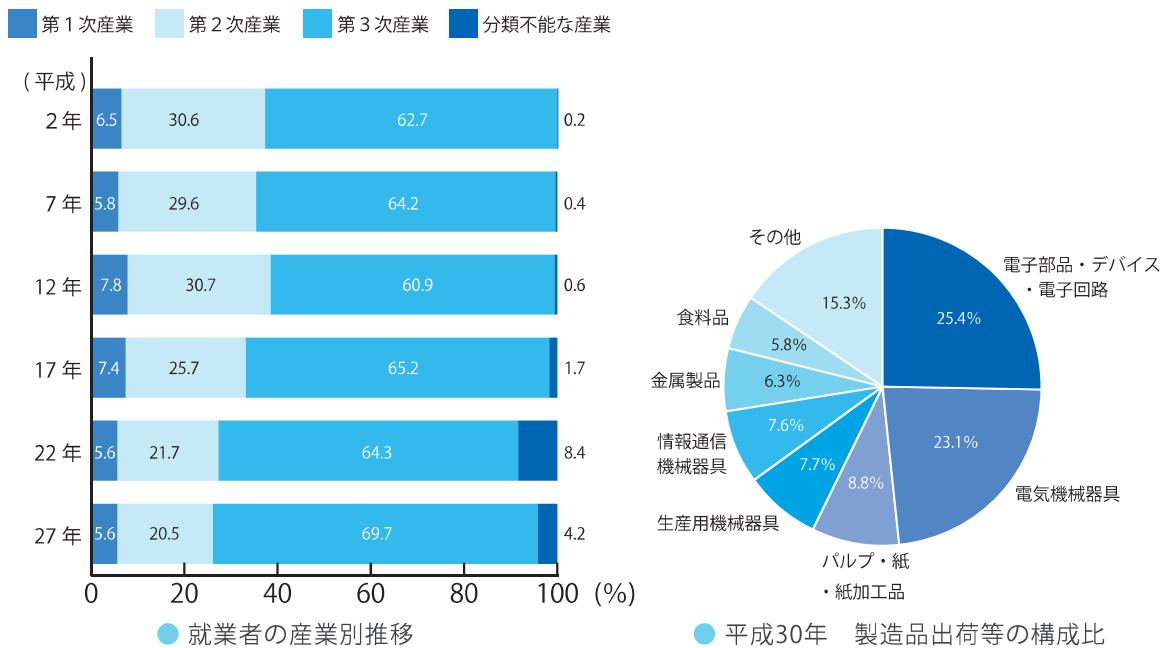
平成17年(2005)以降は、転出数が転入数を大きく上回る状況が続いており、一貫して社会減(転出超過)となっています。特に平成20年(2008)はリーマンショックの影響等もあり、ここ10年間で最大の社会減となっています。



## (2) 産 業

本市の産業構造は、全国的な傾向と同様で第3次産業が主体となっていますが、産業別就業者数について平成2年(1990)から平成27年(2015)までの推移は、第1次産業は10%以下で、第2次産業は30.6%から20.5%に減少し、第3次産業が62.7%から69.7%に増加してきていますが、全国的な傾向から見ると第3次産業の割合は低く、第1次・第2次産業の割合が高い傾向にあります。

製造品の出荷額の構成比では、平成30年(2018)で電子製品と電気機器で全体の約50%を占めており、電子・電気部品を中心とした産業構造が特徴といえます。



### 1) 第1次産業

本市の農林水産業の出荷額は、平成10年代頃は約400億円台で推移していましたが、平成28年度に500億円台まで増加し、本市の総生産に占める農林水産業の割合は2.8%に達しました。これは、同年の国内総生産に占める農林水産業の割合1.2%と比較すると、高い割合を示しています。

#### ① 農林業

千代川をはじめとする市内を流れる河川により、豊富な水資源に恵まれた本市の基幹農業である稲作では、早世品種である「コシヒカリ」や「ひとめぼれ」のほかに中生品種である「きぬむすめ」が栽培されています。米の作付面積は約3,000haで県内一位を誇り、年間約16,000t以上の収穫量があります。また平成30年(2018)には20年の歳月をかけて鳥取県が品種改良した新たな主食用米として、新品種「星空舞(ほしぞらまい)」が誕生し、今後は作付面積を増やし、本格的に生産を開始します。

福部町の海岸部に発達した砂丘地で育てられる「らっきょう」は、地域ブランドとして地理的表示保護制度により「鳥取砂丘らっきょう」、「ふくべ砂丘らっきょう」の名前で登

録されています。また鳥取県を代表する果実である二十世紀梨は、明治37年(1904)に千葉県から苗木が桂見に導入されて以降、県内各地で盛んに生産が行われ、特に福部町や佐治町では地域を代表する果実となっています。なお、今も桂見に残っている二十世紀梨の親木は県の天然記念物に指定されています。

本市の林野面積は54,704haで林野率は71.5%、このうち民有林は48,451ha、人工林率は46.71%で、県平均の54.49%より低い状況となっています。森林は温暖化防止、生物多様性の保全のほか日々の市民生活に必要な多面的機能を有しているため、計画的に保全管理され、健全な森林としてその機能を発揮することが望まれています。しかし、本市林業の状況は木材価格が振るわないことに加えて、林道の路網密度が低く施業のコスト縮減が図れない等の実態から林業離れが進み、適期の枝打ち・伐採などの各種施業が滞っています。

## ②水産業

県内18漁港6港湾の内、本市には6漁港1港湾があり、鳥取県海水面漁業における漁獲量の21.8%、生産額の17.2%（鳥取県漁獲情報提供システム）を占めています。海岸の多くは起伏の少ないなだらかな砂浜域が占めていますが、本市の東部と西部には天然の岩場があります。

山から川を経て海へと豊かな栄養分が流れ込むことから、沿岸では小魚を食べるサワラやブリなどの回遊魚や、海底に生息するカレイやヒラメ等の底魚類が漁獲されます。



● 賀露港のズワイガニのセリ

ズワイガニは鳥取を代表する冬の味覚として全国的に知られており、オスは松葉ガニと呼ばれ、中でも厳しい基準を満たしたものは「五輝星（いつきぼし）」のブランドで販売されています。また夏の天然岩ガキも同様に「夏輝（なつき）」と呼ばれ、ブランド化を図っています。岩ガキなどは素潜漁で獲られており、青谷町夏泊では、鹿野城主であった亀井茲矩が呼び寄せた漁夫が起源とされる海女漁が行われていましたが、後継者不足により、近年途絶えてしまいました。しかし、福部町では「海女の里づくり」として新たな後継者の育成が行われており、伝統漁法の継承を行っています。一方水産資源の増殖を図るため、漁獲制限やアワビ、サザエ、カキなどの稚貝やキジハタの稚魚の放流に加え、岩のり増殖場整備などが実施され、漁場の再生と新たな漁場の整備が行われています。このほか湖山池ではシジミ漁場の整備や近年不漁が続く千代川の鮎は対策プランを策定し、安定した漁獲を目指しています。

## 2) 第2次産業

本市の製造業の中心は電子部品・機器で、このほか、紙や金属製品の生産も行われ、これらの工業製品は山陰地方でも有数の生産量を誇っています。また近年は高速道路開通に伴って鳥取南インター布袋工業団地の造成が行われ、積極的に企業誘致を行っています。

市内の伝統工芸品である因州和紙は、青谷町と佐治町で生産が行われ、伝統工芸士による手漉き和紙の生産も行われています。このほか人間国宝の前田昭博氏が活動している河原町西郷地区では「いなば西郷むらづくり協議会」が中心となり県・市・商工会議所等と連携を図りながら「いなば西郷工芸の郷」づくりを進め、陶芸作家の移住定住の促進が図られています。

## 3) 第3次産業

本市の産業別就業者数において最も多い業種で、サービス業と卸売業と小売業が大半を占めており、その事業所数は、市内の事業所数の60%以上を占めています。

このうち卸売業と小売業従業者数が1~4人の事業所が半数を占めていますが、従業者数では、10~29人の事業所が市内全体の約1/4以上を占めており、小売業の集約化が進行しています。加えて郊外型の大規模商業施設の進出によって、古くから続く町場で営業する小規模店舗が減少してきており、歴史的町並みの保存や地域コミュニティの維持にも影響を及ぼしています。

## (3) 交通

鉄道網は日本海沿いに京都駅（京都府）から下関駅（山口県）に至るJR山陰本線、南北方向には鳥取駅から津山駅（岡山県）に至るJR因美線が通っています。平成6年（1994）12月には智頭駅から上郡駅（兵庫県）まで第三セクター智頭急行株式会社の運営によって、鳥取から姫路・岡山方面に向かう智頭線が開通しました。山陰地方の中では特に京阪神地方との結び付きが強く、その主要な駅である鳥取駅は、山陰地方における東の玄関となっています。同じく第三セクターの若桜鉄道も郡家から因美線経由で鳥取駅に乗り入れています。

道路網は、主要幹線道路として海岸線と平行に走る国道9号、市街地から南北方向に走り、智頭・岡山方面へ走る国道53号、同じく市街地から南北方向に走り、若桜・姫路方面へ走る国道29号があります。また高速自動車道は中国横断自動車道「姫路鳥取線」のうち鳥取自動車道が平成25年（2013）3月に開通したことにより中国縦貫自動車道と接続され、2時間半で鳥取・大阪間を結ぶことになりました。また本市を起点として西に延伸する山陰自動車道の鳥取西道路区間は、令和元年（2019）5月に鳥取西ICから青谷IC区間が完成したことにより、鳥取・米子間の所要時間が15分短縮されたほか、災害時の国道9号の代替路線としての活用も期待されています。今後は、山陰自動車道と山陰近畿自動車道を結ぶ鳥取西IC一福部IC区間の早期の事業着手が待たれています。

空路は鳥取砂丘コナン空港から、羽田空港への直行便が1日5便就航しており、東京へは約1時間15分で結ばれています。

定期就航している海路はありませんが、古くは賀露港と呼ばれた鳥取港は、対岸貿易を行うために極めて有利な位置にあることから、江戸時代から明治時代にかけて青谷港とともに北前船の寄港地として栄え、昭和50年(1975)には重要港湾として指定を受け、現在も環日本海交流の海の玄関口として機能しています。

バス路線は、鳥取駅にある鳥取バスターミナルを発着点として京都・大阪・姫路・広島・福岡など主要都市を結ぶ高速バスのほか、本市の各方面に向かう路線バス、中心市街地を3ルートに分けて各20分おきに周回する100円循環バス「くる梨」が運行されています。このほか土・日・祝日には同じく鳥取バスターミナルを発着点として、鳥取城跡や鳥取砂丘など市内の主な観光地を巡る「ループ麒麟獅子バス」が運行されています。

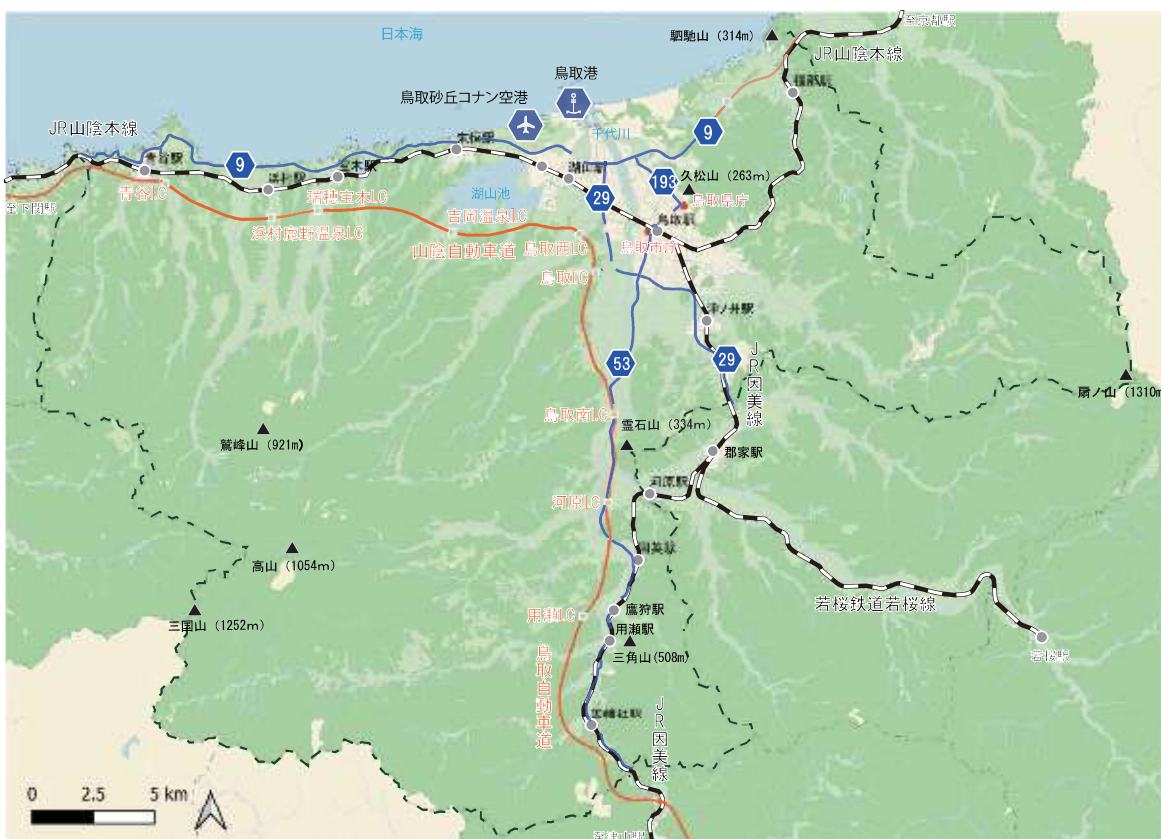
また観光地を巡るには、バス以外にも鳥取観光マイスターの資格を持つドライバーが案内するタクシー観光やレンタサイクルがあります。



● 智頭急行 特急 スーパーはくと



● ループ麒麟獅子バス



● 鳥取市の交通網

#### (4) 観 光

本市は、地域資源を生かしたまちづくりを政策に掲げ、観光資源や自然、歴史・文化、イベントなどの掘り起こしを行い、滞在型観光の推進を図っています。特にユネスコ世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパークは国内だけではなく、世界に誇れる自然と地質をもったエリアで、官民挙げて一体的な保護・保全を図るとともに観光などの地域産業に活用していく取り組みが進められています。また近年は旅行形態や旅の目的、観光の在り方が多様化しており、グリーンツーリズム、スポーツツーリズムなど新たな観光ニーズも見込まれ、多様なニーズに対応した観光ルート・観光商品の開発や広域観光連携を進めています。

本市の代表的な観光地といえば鳥取砂丘が挙げられます。鳥取砂丘は山陰地方だけではなく、日本を代表する観光地であり、日本人観光客だけではなく海外からの観光客も増加しています。また砂丘の近くには砂丘の持つ価値や魅力を伝えるための施設として、「鳥取砂丘ビジターセンター」が整備されているほか、精巧な砂像を制作・展示する「鳥取砂丘 砂の美術館」も整備されています。このほか博物館などの文化観光施設や温泉地、海水浴場といった観光スポット以外にも、松葉ガニや福部砂丘らっきょう等の特産物、「お雑煮 100 選」（文化庁）に選ばれた<sup>あずき</sup>小豆雑煮などの郷土料理などの地域資源が数多くあります。



● 鳥取砂丘と観光用ラクダ



● 松葉ガニ



● <sup>あずき</sup>小豆雑煮

また、観光産業を基幹産業の一つとして確立することを目指し、観光協会及び民間企業との連携を図っているほか、観光産業に関わる民間企業への支援として、観光施設改修に関わる事業と観光客誘致・広報宣伝に関わる事業に対する補助制度を設けています。鳥取市観光コンベンション協会や麒麟のまち観光局を設立し、市内各地域の観光資源の掘り起しだけではなく、広域的な観光資源の開発や地域の魅力を生かした観光・旅行商品の開発などの取り組みも行っています。

本市の主な観光施設への年間の入り込み客数は、鳥取砂丘の年間約100万人を筆頭に、鳥取砂丘に関連する施設の来訪者が多いほか、鳥取の冬の味覚である松葉ガニを堪能できる鳥取港海鮮市場「かろいち」などに多くの観光客が訪れています。

(単位：人)

観 光 施 設 名	H28	H29	H30	R1	R2	備 考
青谷上寺地遺跡展示館	8,351	8,187	8,469	11,313	6,050	
鳥取市あおや郷土館	9,135	7,836	10,021	10,530	8,895	
青谷ようこそ館	8,838	10,337	10,165	8,890	6,383	
因幡万葉歴史館	23,840	23,431	29,833	37,889	15,013	
さじアストロパーク	18,777	18,031	22,243	18,445	9,486	
高砂屋	24,673	18,722	25,127	24,915	11,270	
鳥取県立博物館	86,434	94,470	92,351	86,297	87,878	
仁風閣	36,423	41,944	40,247	41,341	23,509	
鳥取県立とっとり賀露かっこ館	259,813	236,842	250,083	327,764	170,748	
鳥取童謡・おもちゃ館(わらべ館)	143,230	122,966	124,583	129,330	56,400	
鳥取市歴史博物館(やまびこ館)	34,265	33,452	39,063	33,980	13,487	
鳥取砂丘砂の美術館	450,011	406,328	444,523	496,574	166,510	
鳥取砂丘ジオパークセンター	100,652	45,566	83,022	-----	-----	平成30年10月より鳥取砂丘ジオパークセンターから移行
鳥取砂丘ビジターセンター	-----	-----	-----	284,160	165,123	
鳥取砂丘	1,286,038	1,161,640	1,092,701	1,164,887	575,541	
お城山展望台 河原城	29,096	27,710	27,978	32,063	21,985	
鹿野往来交流館「童里夢」	22,117	17,912	18,612	19,761	11,464	
流しびなの館	12,855	10,908	12,540	13,578	4,763	
あおや和紙工房	23,384	21,050	23,349	26,529	14,744	
因州和紙伝承工房 かみんぐさじ	10,396	8,727	9,814	4,477	2,749	
鹿野そば道場	22,474	21,519	20,318	22,731	16,058	
森林公園「とっとり出合いの森」	99,041	103,366	101,039	101,501	93,321	
鳥取県立鳥取砂丘こどもの国	159,025	153,906	152,925	152,919	78,470	
鳥取港海鮮市場「かろいち」	461,556	705,339	770,525	797,805	576,876	
地場産ブラザ「わったいな」	886,811	844,514	887,300	930,713	736,977	
賀露みなと海水浴場	5,514	5,953	4,812	4,040	-----	
小沢見海水浴場	3,217	2,500	1,840	2,100	-----	
鳥取砂丘海水浴場	12,000	10,000	8,500	7,000	3,500	
白兔海水浴場	18,000	8,000	7,000	7,000	-----	
鹿野温泉	15,618	16,281	15,261	14,335	9,147	
しかの温泉館(ホットピア鹿野)	92,440	88,803	80,990	84,879	77,221	
鳥取温泉	78,872	76,476	88,959	89,746	48,438	
吉岡温泉	25,356	25,134	24,283	24,059	11,619	
浜村温泉	13,789	15,298	14,476	14,614	9,402	
福部砂丘温泉ふれあい会館	48,287	50,529	49,630	50,171	34,213	
湯谷温泉	31,516	28,594	29,980	31,169	20,464	
道の駅 神話の里うさぎ	586,432	567,426	578,714	472,181	269,822	
道の駅 清流茶屋かわはら	1,475,811	1,451,780	1,457,573	1,481,777	1,037,760	
道の駅 西いなば気楽里	-----	-----	-----	530,947	671,407	令和元年6月オープン
合 計	6,624,087	6,491,477	6,658,849	7,592,410	5,066,603	

※R2の入込客延べ人数減は、新型コロナウイルス感染症によるもの

● 鳥取市主要観光施設等の入込客延べ人数

さらに本市には以下のような日本 100 選となっているものがあり、本市の観光資源となりえるものです。

番号	名 称	対 象	所 在 地
1	人と自然が織りなす日本の風景百選	鳥取砂丘・白兔海岸から岩戸海岸	浜坂・福部町湯山ほか
2	デザインマンホール 100 選	しゃんしゃん傘	鳥取市内
3	日本遺産百選	鳥取砂丘	浜坂・福部町湯山ほか
4	快水浴場百選	砂丘海水浴場、白兔海水浴場	福部町湯山 白兔
5	プロが選ぶ土産物施設 100 選	砂丘会館	福部町湯山
6	日本神社 100 選	宇倍神社	国府町宮下
7	美しい日本の歴史的風土準 100 選	因幡三山と稲葉山一帯	鳥取市 国府町
8	ローカル線 100 選	JR 因美線	
9	農山漁村の郷土料理百選	かに汁、あごのやき	
10	日本の橋 100 選	三滝つり橋	河原町北村
11	残したい日本の昔風景百選	因州和紙の紙すき	青谷町、佐治町
12	日本の花火&夏祭り 100 選	鳥取しゃんしゃん祭 市民納涼花火大会	鳥取市
13	平成百景	鳥取砂丘	浜坂・福部町湯山ほか
14	イルミネーション 100 選	鳥取砂丘イリュージョン	福部町湯山
15	都市景観 100 選	鳥取新都市若葉台地区	若葉台
16	近代水道百選	美歎水源地	国府町美歎
17	新日本旅行地 100 選	鳥取砂丘	浜坂・福部町湯山ほか
18	平成の名水百選	布勢の清水	気高町殿
19	日本さくら名所百選	久松公園	東町
20	日本の夕陽百選	鳥取砂丘	浜坂・福部町湯山ほか
21	ヘリテージング 100 選	仁風閣	東町
22	日本の地質百選	鳥取砂丘	浜坂・福部町湯山ほか
23	日本 100 名城	鳥取城	東町
24	未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選	湖山池の石がま	三津
25	ふるさといきものの里百選	鳥取市ホテルの里	上町
26	日本百名橋	智頭橋	元町
27	日本の道百選	若桜街道・本通り	戎町ほか
28	疏水百選	大井手用水	河原町から鳥取市賀露町まで
29	日本の自然 100 選	久松山	東町
30	日本の渚百選	白兔海岸・鳥取砂丘	白兔、浜坂ほか
31	日本の滝百選	雨滝	国府町雨滝
32	ふるさとおにぎり百選	い貝めし	青谷町夏泊
33	お雑煮 100 選	小豆雑煮	

● 鳥取市内にある主な日本100選



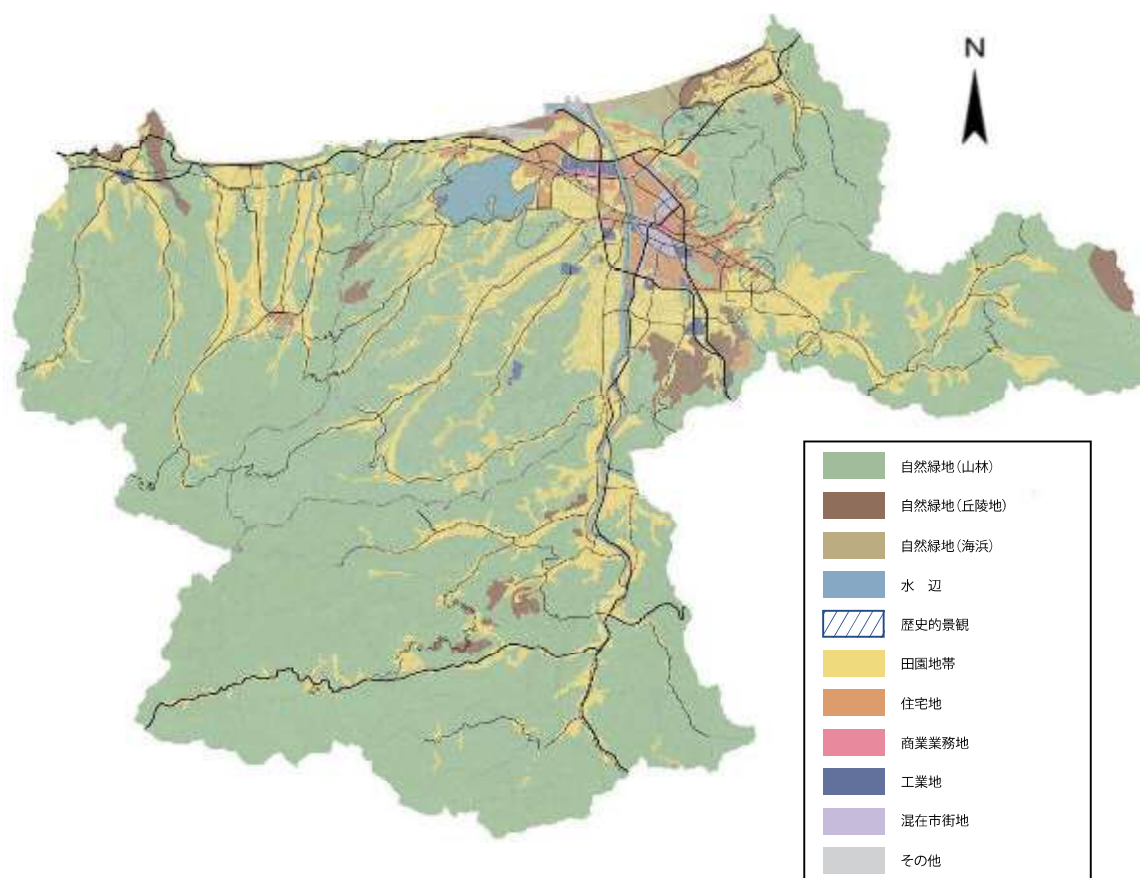
## (5) 土地利用

本市は、明治22年(1889)10月1日市制施行後、周辺の村の編入や境界変更を行い、平成16年(2004)11月1日に8町村を編入合併し、中核都市として山陰地方東部の政治、経済、文化の中心地として発展しています。

現在の市域は765.31km<sup>2</sup>ですが、山林が71.5%(547.05km<sup>2</sup>)を占めており、国定公園や県指定の自然公園等に指定されているほか、水源の涵養、土砂流出の防止、生活環境の保全等を目的とした保安林に指定されているものもあります。残り約30%は、農用地12.7%(97.31km<sup>2</sup>)、宅地4.3%(33.15km<sup>2</sup>)、その他11.5%(87.8km<sup>2</sup>)という状況です。

市東部の鳥取平野は、江戸時代より鳥取藩主池田家の居城である鳥取城の城下町として発展し、政治・経済・文化の中心地として繁栄を続けてきました。その中枢を担うのが、JR鳥取駅を中心としたエリアであり、商業・行政・業務施設が集積した市街地を形成しているほか、山陰地方有数の工業生産を誇る本市の工業地として、新津ノ井工業団地をはじめ、布袋工業団地、高浜工業団地等の工業団地があります。

また市内の国府町、福部町、河原町、用瀬町、佐治町、気高町、鹿野町、青谷町には、平成16年(2004)合併前の町村区域ごとに総合支所が置かれ、行政サービスを行っています。また、歴史民俗資料館などが設置されている地域もあり、地域の歴史文化の普及啓発活動の拠点ともなっています。



● 土地利用の現状